

実務事例紹介(1)

杉田茂樹

(京都大学附属図書館)

自己紹介と本日の内容

- 北海道大学（HUSCAP）2005-2009 ←実務
 - 小樽商科大学（Barrel）2010-2012
 - 千葉大学（CURATOR）2013-2015
 - 東京大学（UT Repository）2016-2017
 - 上越教育大学（上越教育大学リポジトリ）2018-2019
 - 京都大学（KURENAI）2020-
-
- 尾城孝一「機関リポジトリの神話と真実：試作版」（H17.11未公表）を元に加筆・改稿

（神話）

読者のための論文提供サービスである

（真実）

著者のための可視性向上サービスである

（神話）

著者の許諾の下に、図書館が論文を公開する

（真実）

著者が自らの意志で論文を公開する

大学（図書館）はそのための場所を提供する

（神話）
著作権法に則る

（真実）
著作権譲渡契約に則る

（神話）

機関リポジトリの発展により、電子ジャーナル価格の上昇が抑制される

（真実）

抑制されない。電子ジャーナル価格上昇に対する著者サイドの対抗策である

（神話）

NIIとのシステム連携が重要

（真実）

**世界中の情報検索サービス機関とのシステム
連携が重要。NIIはOne of them**

（神話）

**オープンアクセス方針、RDM方針を定める
ことにより自動的に論文が集まるようになる**

（真実）

**ならない。方針策定の意義は、その過程での
大学執行部へのOA概念浸透にある**